

枚方宿地区まちづくり協議会の取り組み

監修：枚方宿まちづくり協議会

1. 枚方宿地区について

東海道五十六番目の宿場町「枚方宿」というと、不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれません。東海道は五十三次でしょう？なぜ五十六もあるの？実は江戸時代の公文書に、「東海道は品川宿より守口宿」と明記されているものがあるのです。つまり安藤広重や十返舎一九による五十三次以外に、伏見宿、淀宿、枚方宿、守口宿が東海道の宿場町に含まれていたということです。

枚方宿は、このように東海道の宿場町として江戸時代は大変栄えていましたが、それだけではなく、淀川舟運の中継としての港町としての役割や、近隣に8か寺を擁する寺内町としての性格も持ち合わせていましたので、多様な文化資源が今も数多く残っております。また万年寺山があったり淀川があったりして自然豊かで風景が良く、静かで、京都と大阪のまんなかということで便利で住みやすいところです。

その利便性と住みやすさによって、高度経済成長によるまちの近代化のための建替えや再開発が行われ、往時をしのぶ建築物はどんどん減少し、当時街道沿いに350軒ほどあったといわれた町家は、いまではその1割弱にまで減ってしまいました。特に街道沿いの建物は、街道の度重なるメンテナンスで砂を入れたため道路が地面より高くなり、家屋の水はけが悪くなるため、そのままの形で維持することは実は大変に困難なことなのです。



宗左の辻の道標 文政9年(1827)



蟲籠窓のある家並み

2. 枚方宿地区まちづくり協議会の概要

(1) 協議会設立に至る経緯

枚方市は、建替え等で歴史的な家が壊されていくことに危機感を感じ、歴史的な街並みを保全していくため、まず学識経験者に江戸時代の家屋に関する調査を委託しました。その後平成11年10月に枚方市の呼びかけで地域の歴史を活かし、地域住民が誇りのもてる活気と魅力のあるまちをつくるため、地域の自治会、商店会、商工会議所、関

係団体等の参加による「枚方宿地区まちづくり研究会」を発足しました。枚方市から自治会に呼びかけがあったのは、枚方市駅付近の再開発ビル「ビオルネ」が出来た後でしたので、まちづくりの方針を180度転換して昔の街並みを残していこうというまちづくりだということで、地元の方々は驚かれました。研究会では枚方宿地区の2か所で会議を開いて、まちづくり協定について話し合い、アンケートを行い集計した結果、宿場町の面影を残していこうという方向性が確認されたので、平成12年6月に「枚方宿地区まちづくり協議会」を発足しました。協議会の構成は自治会、商店会、北大阪商工会議所、枚方青年会議所、枚方市商業連盟、宿場町枚方を考える会、枚方文化観光協会および住民です。



枚方宿（ビオルネ向かい 岡本町公園）

(2) 枚方市の支援等

先ほどのまちづくり協定について詳しくご説明します。まちづくり協議会では、地域住民の手で取り組むまちづくりの第一歩として、「住民みんなで進めていくためのまちづくりの指針」となる、枚方宿地区まちづくり協定を結びました。平成13年のことです。これは歴史的な街並みを保全するために、枚方宿地区内で新築・増改築等を行う場合は建築主側と協議を行うというものです。枚方宿地区内で、新築・増改築される場合は景観住宅整備課に景観の届け出が必要ですが、届け出に先立って枚方宿地区まちづくり協議会の協定運営部会にかけていただくよう行政より促しています。つまり行政の指導だけでなく、地元と協議をするということになります。あわせて枚方市は、修景助成で費用面の補助を行っています。持ち込まれる案件は多い年で年5～6件あります。



万年寺山散策道（石畳と淡い街灯）

枚方市は、一方でハード面の整備にも取り組みました。国庫補助事業である街なみ環境整備事業や大阪府補助の石畳と淡い街灯まちづくり支援事業などを活用して、道路美装化・無電柱化事業・駅の顔賑わい創出事業等を実施しました。ただし、無電柱化事業については枚方宿地区の街道すべてにおいて実施することはできませんでした。



無電柱化された街路

当時無電柱化が進まなかった原因は地中化できる空間がなかったことや裏配線の際住民の同意が必要でなかなか同意が得られない等様々な問題があり、枚方市の方も苦勞されました。街道筋と並行して走る都市計画道路三矢線（一方通行）が京阪の線路沿いにできたので、後で述べる枚方宿くらわんか五六市も開催しやすくなりました。

また、枚方宿くらわんか五六市のようなイベント等が開催されるときの支援として、イベント開催に伴う行政手続きも

支援しています。

(3) 活動内容

平成12年6月に協議会が発足した後、協議会内に下記の通り4つの部会をつくり各部会ごとに活動を行っています。

まちづくり協定運営部会(平成13年発足)

「まちづくり協定」に基づき建築主側と協議を行うとともに、市の修景助成制度を活用した歴史的景観の保全整備について協力を求める。

街道菊花祭部会【ガーデニング実行委員会】(平成14年発足)

枚方市の花である“菊”(小中学校で育てられた大菊三本仕立て約200鉢)を街道沿いの家の軒下に飾る。併せて俳句大会も開催している。

町家情報バンク部会(平成18年発足)

町家情報バンクを介して町家を貸したい人と借りたい人を結び、空き町家を活用して地域を活性化する。

枚方宿くらわんか五六市部会【くらわんか五六市実行委員会】(平成19年発足)

毎月第2日曜日に手づくり・コダワリのモノがたくさん揃う手作り市を開催。

(4) 組織体制

組織体制については下記の通りです。

- ・役員数: 25人(自治会、町内会のほか商店会、商工会議所、関係団体等から役員を選出)
- ・スタッフ数: 各部会に部会長、副部会長、スタッフ5~6人がいます
- ・ボランティア: 枚方宿くらわんか五六市のボランティアスタッフは約15名
- ・学識経験者の支援: 立ち上げ当初は大学の教授に支援を依頼

なお、協議会は任意団体ですが、枚方宿くらわんか五六市の運営を担う一般社団法人を別途設立しています。

(5) 収支予算

協議会の収入については、基金収入の他、枚方市からの補助金があります(年間約30万円)。

3. 協議会の取り組み内容

(1) まちづくり協定運営部会の取り組み

先ほど枚方宿地区まちづくり協定についてご説明しましたように、新築や増改築の際に建築申請を枚方市に提出されると同時にまちづくり協定運営部会と協議していただきます。協定運営部会ではまちづくり協定を基に申請の内容をチェックしています。色彩についても取り決めを別途定めています。これまでかなりの件数をこなしており、平成14年からの累計件数は約50件に上ります。外から移住してくる場合であっても、まちづくり協定による取り決めがあることが(不動産の会社を含めて)理解されてい



淀川左岸水防事務組合

と思います。なお、修景に対する補助金は、一般建築物の場合、修景に要する費用の1/2、上限300万円(ただし、補助を行う基準があります)で年間2件程度採択されています。なお、消防組合本部や淀川左岸水防事務組合などの公共の建物も修景に協力していただいています。

まちなみ景観を守ろうという意識づけや、他所から来られる方へのアピールのため、枚方宿地区まちなみ景観プレートを設置しています。プレートを設置する建造物は、①歴史街道枚方宿にふさわしい昭和初期までに建築された伝統的建物で中二階の蟲籠窓等の有る建造物、②和瓦、漆喰、腰板などの伝統的素材を使用するなど、歴史街道枚方宿地区にふさわしく修景された建造物、③ ①～②を基準として、協定委員の過半数の賛成により特別に認められた建造物 としています。これまで10～20軒の建造物に設置しています。

(2) 街道菊花祭部会

枚方という昔から菊人形が有名でしたが、最近では菊人形をつくる職人もなくなってしまいました。街道菊花祭部会ではその引き継ぎとして、毎年秋に大菊三本仕立ての菊を小中学校から提供してもらい街道筋に並べてまちの魅力アップを図っています(約200鉢)。また枚方宿・菊・五六市等を題材にした俳句を付けてもらっています。菊を育てることと俳句を詠むことが教育の一環としてよい題材になっているようです。また菊だけでなく1年中花で街を飾ろうという取り組みとしてガーデニング講習会も行っています。

(3) 町家情報バンク「五十六番館」

枚方宿の魅力発信と賑わいづくりを目指し、町家等を貸したい人と借りたい人を結ぶことで地域内にある空き町家等の活用を支援しようということで発足しました。町家情報バンクの仕組みは、枚方宿内で空き町家を借りたい人はホームページ上のフォームより登録してもらいます。空き町家の登録があれば、借りたい人に対して物件の見学会を実施します。そして借りたい人によりプレゼンテーションを実施し、所有者にマッチングさせるというものです。部会発足当時は、空き町家があり借りたい人も200人程度登録がありました。現在は借りたい人は十数人登録されていますが、空き町家の登録が無い状況です。

これまでの町家情報バンクの成約事例は約10軒です。活用事例のひとつであるフリースペース「56un」は建物を修景後、枚方宿くらわんか五六市でチャレンジショップとして運営しており、1日単位で貸し出しを行っています。滋賀県にお住まいの個人所有の建物で、一軒の家のうち店舗部分を貸していただき改築して使用しています。くらわんか五六市が借りて運営しています。自分でお店を持たれるためのワンステップになっています。



フリースペース「56un」



Café「草々徒」



カフェ「mani cafe」 ギャラリー「Note Gallery」



イタリアン「MogaJoga Dining」

借りたい人の登録者数はあるが、空き町家がないという状態です。逆に言うと空き町家のまま放っておかれることがないというのは人気があってよいということも言えますが、枚方市駅周辺ということもあり、古民家を修繕して維持するより、更地にして売りに出したほうが買い手があるというのが課題です。特に相続物件の場合、相続を受ける人が枚方市に住んでいないケースが多いので、まちに愛着がなくなり建物を守る意識が薄くなっていく。そうすると貸して管理するぐらいなら売ろうという動きになってしまいがちです。少しでも多くの方に町家情報バンクの活動内容を理解してもらい、空き町家登録をしてもらおうと思っています。

(4) 枚方宿くらわんか五六市

町家情報バンクに登録されている物件数に比べて入居希望者が多いことから、少しでも枚方宿での出店を体験していただく、出店希望者を募って街道沿いの町家の軒下や駐車場を利用した市を開催しています。かつて東海道五十六番目の宿場町だった枚方宿の賑わいを甦らせたいとの思いから、「枚方宿くらわんか五六市」(以下、五六市)と名付けました。手づくりの雑貨やアクセサリ等の作品やコダワリのモノなど個性溢れる品々が並んでいます。毎月必ず第2日曜日に開催していることと、フリーマーケットではなく全て手づくり・コダワリのモノを販売していることが五六市の特徴です。

もともと枚方宿街道菊花祭のイベントとして枚方宿ジャズストリートが年1回秋に開催されていました。その後6月にプレイイベントが開催されるようになりましたが、それだけではさみしい。歴史的な建物はあっても賑わっていないので、賑わいづくりで何かできないかということを検討していたところ、京都の知恩寺で開催されている手づくり市を見学に行きました。平成18年11月のことです。知恩寺では月1回、広い境内で優れた手づくりの品を売ってしま



枚方宿くらわんか五六市

た。「これなら枚方宿でもできるのでは」ということで関係者で盛り上がり、早速翌年3月に第1回の手づくり市をはじめました。立ち上げた当初はなかなか出店者が集まらず、知り合いや身内に店を出してもらっていました。また当初は地元の理解は中々得られなかったので街道筋にたくさんあるお寺の境内や日曜日に使っていない病院の駐車場を貸していただいて開催しました。数年経つうちにだんだんと五六市が周知されるようになってきました。また、協議会の役員は枚方宿地区内の自治会長も就任しているため、各自治会長より枚方宿内の住民の方へ協力をお願いをしてもらっているということもあり、地域の方の理解も進んできて町家の軒下などを使わせていただくことになりました。

道路や公園を使用するためには市役所や警察の協力が必要になります。協議会と枚方市は二人三脚で動いているので、枚方市はイベント開催時の道路占用・道路使用・公園占用等の手続きの面で支援しています。

警察との協議において、住民の同意は必要事項でした。やはり当初は毎月通行量を計って報告し協議していました。現在は広範囲に道路占用を行い安全を確保できるようになっています。平成28年3月五六市の10周年イベントをしたとき、警察主催の交通イベント(自主返納式等)を五六市と同日開催しました。

平成18年の立ち上げ当初は、出店数は約50店舗でしたが、現在では毎回公募で約200店舗が集まります(出店登録1,000店以上)。来場者数も当初は約4,000人でしたが現在は約8,000人に上っています。出店料は1ブース4,000円、0.5ブース2,000円をいただいています。テントや机はレンタル会社より借りています。出店者は遠方(大阪府外)からも来られます。経費としては、人件費、警備費のほか、出店申込のためのシステムに関する経費があり、収支とんとんというところです。立ち上げ当初は、協議会の役員が手づくりで運営していましたが、現在はこれまでボランティアでやってくれていた若者が就職している企業に五六市の運営を委託しています。

来場者への最近のアンケート調査によると、①来場者の構成は圧倒的に女性が多い、②30～40歳代がもっとも多い、③半分弱が枚方市外から、④マイカーでの来場が結構多いということが分かりました。マイカーは周辺に有料駐車場があります。また、子育てイベントとして、子供向けの紙芝居やマジックショーなどもやっています。

成功の要因としては、毎月必ず第2日曜日に開催していること、フリーマーケットではなく全て手づくりコダワリのモノを販売しているため、五六市でしか買えない物があるということが挙げられます。そして点から線につながったことが成功の証だと思っています。地元の方が中心となり実施しているため地元の協力が得られやすく、無償で駐車場や軒下をお借りできているのです。



五六市（駐車場の活用）



五六市（公園の活用）

4. 枚方宿がめざすまち

ブランドという観点では、枚方宿は枚方市の魅力のひとつになっています。まちづくり活動が歴史的な街なみ保全に繋がっていますし、五六市の日には約 8,000 人の来場者が訪れ、賑わい創出に繋がっています。またこの活動が枚方市内のほかの商店街などにも影響を与えていて、にぎわいづくりの輪が広がっています。メディアにも取り上げられるとともに、まちおこしの事例として他地域から視察にくるようにもなりました。大阪府が力を入れている淀川の水運との連携もうまくいっていて、毎月大阪市内(八軒家浜)から船に乗ってきて、五六市を楽しんでいただけるようになったということで、観光にも寄与しています。



市立枚方宿鍵屋資料館

一方、まちづくりの課題やこれからの取り組みもお伺いしました。

- ・歴史的な景観にするには、瓦や漆喰等にする必要がありますが、費用がかかるため持ち主の負担になります。家の所有者の世代が代わると、歴史的な景観づくりに協力をいただけなくなる場合がありますので、所有者の思いと協議会役員の思いの折衷案を探すことで調整を行いたい。
- ・五六市開催日以外の日の枚方宿の賑わい創出を行う。市立枚方宿鍵屋資料館まで来られている観光客を枚方市駅まで誘導する何か新しいしかけづくりを考えるのが課題。
- ・常設店舗の出店数増加や五六市開催時の出店可能な場所を確保したい。
- ・事務局の拠点を整備したい。事務所その他、お店を出したり会議をしたりするスペースがほしい。
- ・後継者の育成を行う。若い人や新しく来た人の部会をつくるなど、次の世代の人たちが活躍できる場をつくりたい。
- ・小菊を飾る取り組みやガーデニングで菊以外の花を植えて年中まちを飾りたい。
- ・原点に戻って枚方宿の勉強をしたい。8つあるお寺の魅力も発信していきたい。

東海道 56 番目の宿場町・枚方と 57 番目の宿場町・守口、さらに西国街道の宿場町・高槻と「三宿会議」を始めました。宿場町の魅力づくりを通じた連携も探っています。是非、東海道枚方宿にお越しください！

■このまちづくりレターは、枚方宿地区まちづくり協議会にヒヤリングをさせていただきました内容を基に当財団が編集し、原稿を同協議会事務局に監修いただきました。

発行元・問合せ先 公益財団法人都市活力研究所
〒530-0011 大阪市北区大深町 3 番 1 号
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7F
TEL 06-6359-1322/FAX 06-6359-1329